

9.産業と技術革新の基盤をつくろう

地球環境に優しい「紙で作ったアートフラワー胡蝶蘭」の生産・販売を開始

—熊本地震をきっかけに誕生した女性活躍を支援するスーパーウーマンプロジェクト—

メディアデザイン研究科(KMD)の地域みらいプロジェクトとMICOHANA株式会社(<https://micohana.jp/>)は、経済産業省九州経済産業局デザイン経営ゼミを通じて2022年8月より事業化研究を続けていた、紙で作る「スーパーフラワー」を活用し、2024年度に「アートフラワー胡蝶蘭」を商品化しました。日本の折り紙の技術を活かし、高級紙を使った花を一つひとつ手作りで作り上げることで、品質が長期間に変わらない地球環境に優しい贈り花を提供するプロジェクトです。リサイクル・リユースが可能な供給体制の構築により、生花の売れ残りや規格外品の廃棄問題を解決し、環境や社会に優しい循環を実現します。また、在宅の隙間時間を活用した生産を可能にすることで、子育て中の主婦など外出困難な方の就労機会創出にもつながります。普及啓発に向けて、この取り組みに賛同しプロジェクトに参画している株式会社キイストン(<https://www.keys.ne.jp/>)の飲食店のネットワークを活用し、開店お祝いなどでの活用を通じてさらなる改善と需要の拡大に向けた実証を開始しました。

佐賀県鳥栖市と脱炭素社会の実現に向けた相互連携協定を締結

2024年5月30日、メディアデザイン研究科(KMD)と佐賀県鳥栖市は、鳥栖エリア特有の「物流拠点となる企業集積地」「地域プロスポーツチーム」との連携を通じた脱炭素社会の実現を目的とする相互連携協定を締結しました。

本協定は2023年に締結された佐賀県との連携協定を踏まえ、鳥栖市とKMD双方の資源やノウハウを活用して持続可能な先進地域化を目指すものです。今回の協定では、大幅な省エネルギー化を実現する最先端のZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)とZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)^{*}の理解促進ならびに導入促進など、脱炭素社会の実現につながる企業の新商品やサービスの実証にも取り組みます。

※ 快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間のエネルギー収支をゼロにすることを旨とした建物のことで、ZEHは一般住宅、ZEBはビルや学校、工場など非住宅の建物を対象としています。(参考:東京都産業労働局 <https://www.httnavi.metro.tokyo.lg.jp/column12/>)



鳥栖市役所にて相互連携協定を締結(左から)岸博幸KMD教授、向門慶人市長

成田空港にて地震防災演習を実施

2024年12月6日、成田国際空港株式会社、日本航空株式会社、慶應義塾大学は、成田空港にて地震防災演習を実施しました。三者が連携しての地震防災演習の実施は初の試みとなります。詳しいシナリオが事前に明かされない「ブラインド訓練」で、成田空港にて震度6強が観測された場合を想定し、空港スタッフによる地震発生時の初動対応や空港利用客の避難誘導、被害状況の確認および迅速な情報連携などを確認しました。防災意識の向上および地震発生時の対応に関して共通認識を持ち、空港利用客を安全に避難誘導する初動の実践を目的としています。訓練の様子を記録・分析し、より効果的な防災計画の作成に活かしていきます。

2024年度大学発ベンチャー企業数

2025年6月、2024年度大学発ベンチャー実態等調査の結果が経済産業省から発表され、慶應義塾大学発の企業数は2024年10月末日現在377企業となり、大学別では日本国内第3位、前年度比増加数は86企業で大学別では日本国内第2位という結果となりました。